

第 14 回 ESD 大賞
-Education for Sustainable Development (ESD) Award -

応募フォーマット

ふりがな	だいせんしりつおおまがりみなみちゅうがっこう		校長名	島田 智
学校名	大仙市立大曲南中学校			
住所	〒014-1412 秋田県大仙市藤木字上野中 70-2			
電話番号	0187-65-2001	FAX	0187-65-2051	
応募担当者名	島田 智	担当者e-mail	Satoru-shimada@edu.city.daisen.akita.jp	
ユネスコスクール (いずれかに○)	1. 加盟校(加盟年数: 3年未満・ 3年以上) 2. キャンディデート校 3. 申請中 4. 申請を検討中 5. 興味がある			

テーマおよび 実践の特徴 (実践の全体像がわかるように、箇条書きで 3点お示しください)	1) SDGsの達成に向けたESDの実践による多様な教育活動の展開 2) ESDで身に付けさせたい力とその評価 3) ESDカレンダー及びESDストーリーマップによるカリキュラム・マネジメント			
対象学年	全学年	教科・領域	総合的な学習の時間 他	
キーワード (3つ)	持続可能な社会の創り手の育成、学びのストーリー、外部とのつながり			
教育活動の概要 ※「ねらい」「実践内容」「独自性」を明らかにし、800字以内にまとめてご記入ください。 「活動の成果や今後の展望」は次ページにご記入ください。	<p>本校の教育目標は「自律 貢献～夢大きく 協働的に探究し 誰一人取り残さない社会をつくる～」であり、「SDGsの達成に向けた人づくり」を最上位目標としている。目標達成のためのESD実践は、総合的な学習の時間を軸として、ESDカレンダーとESDストーリーマップに体系化して位置付け、学校全体で計画的に実施している。普段の学習活動で「ESDで身に付けたい力(資質・能力)」を育て、それらを生活の中で活用させることで、持続可能な社会の創り手を育てることをねらいとしている。</p> <p>今年度は、VRによる洋上風力発電の体験と、海の生物多様性のワークショップを行い、SDGsに課題意識をもつことから始めた。</p> <p>1年生は「食」でストーリーを展開した。給食由来の肥料を用いての野菜栽培、その野菜を使つての省エネクッキング、そして、見出した「食品ロス問題」を課題として、フードバンクやスーパーの訪問を行った。並行して家庭科の住居の学習で、国登録有形文化財「旧本郷家」を訪れ、昔と今の家をエネルギーの視点で比較し、積水ハウスの出前講座で家の断熱について学び、「未来のエコハウスを設計しよう」という課題に取り組んだ。多角的にSDGsを学び、2年生のストーリーにつなげた。</p> <p>2年生は「エネルギー」でストーリーを展開した。風力、太陽光発電所を見学した後、気候変動ミステリー授業に取り組み、東北電力や産総研による発電の授業も体験した。最後は、去年の「エコハウス」からつながる「エコシティーを設計しよう」という授業でまとめ、SDGsの17の目標のつながりや達成の意義を自分事として捉えた。</p> <p>3年生は「国際理解」でストーリーを展開した。国際教養大学の学生との交流や、キルバスの中学生とのオンライン交流、デンマーク大使館でのプレゼン等を通して、グローバルな視点で世界の出来事を捉え、当事者意識をもってSDGsの達成に向けて行動しようとする意識を高めた。</p>			

<p>活動分野 (主なものに○)</p>	<p>※ESDの基本的な考え方のうち、活動分野に当てはまる項目に○をつけてください。</p> <p>①. 環境学習 ②. 国際理解学習 3. 世界遺産や地域の文化財等に関する学習 ④. エネルギー学習 5. 防災学習 ⑥. 生物多様性 ⑦. 気候変動 ⑧. その他関連する学習(具体的に:「食」に関する学習)</p>
<p>活動で 扱うテーマ (SDGs) (主なものに○)</p>	<p>※持続可能な開発目標(SDGs)のうち、活動で扱うテーマに当てはまる項目に○をつけてください。</p> <p>① 貧困をなくす ② 飢えをなくす ③ 健康と福祉 ④ 質の高い教育 5. ジェンダー平等 ⑥ 清潔な水と衛生 ⑦ 再生可能エネルギー 8. 経済発展と働きがいのある仕事 ⑨ 産業・技術革新・社会基盤 ⑩ 格差の是正 ⑪ 持続可能なまちづくり ⑫ 持続可能な生産と消費 ⑬ 気候変動へのアクション ⑭ 海洋資源 ⑮ 陸上資源 16. 平和・正義 ⑰ 目標達成のためのパートナーシップ 18. その他(具体的に:)</p>

活動の成果や今後の展望について、下記5つの軸に沿ってお書きください。

<p>「持続可能な社会づくり」のために設定したテーマ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの達成のために私たちには何ができるだろう？(全校) ・食品ロスが生活に与える影響を考えよう(1年) ・未来の「エコハウス」を作ろう(1年) ・気候変動を食い止めるために私たちには何ができるだろうか？(2年) ・「エコシティー」を作ろう(2年) ・気候変動の影響を最も受けるキリバスについて、日本の私たちの課題は何だろうか？(3年) ・誰一人取り残さない社会をつくるために、今私たちにできることは？(3年)
<p>活動によって児童生徒が身に付けた資質・能力</p>	<p>本校が目指す「大曲南中ESD【学習で身に付けたい力】」である、①批判的に考える力、②コミュニケーションを行う力、③多面的・総合的に考える力、④進んで課題を見つける力、⑤学んだことを発信する力、⑥生活に活用する力が身に付いた(資料④)。また、持続可能な開発について考え実践する力(SDGsに関する知識・技能、SDGs達成に向かう意欲、課題解決方法の考察、行動変容、実践力)等も身に付いた(資料⑤)。</p>
<p>活動を通して変容した児童生徒の態度や価値観(考え方)</p>	<p>足下からの行動に加え、グローバルな視点で物事を見つめて考えたり、学んだことを基に当事者意識をもって行動したりするようになった。自分や自分たちの住んでいる地域を大事にしながらも、世界の多様な人々を意識し、今自分は世界のために何ができるのかを考えて行動できるようになった。世界の多様性や相互性、公平性、連携等を踏まえ、協働して学び、発信することで、持続可能な社会の創り手としての資質・能力、態度や価値観が育成された。</p>
<p>活動を通して変容した教員の意識や学校体制</p>	<p>全教科の教員が関わり、ESDストーリーマップを作成したことにより、教科横断的な視点で自分の担当教科を見つめ、単元構成や指導方法の改善・改善を意識して授業づくりを行うようになった。その際の規準となるのは、「大曲南中ESD【学習で身に付けたい力】」であるということを通認識し、コンピテンシーベースの授業を展開するようになった。また、目的(学校目標の達成)と手段(ESD)をはっきり分けて意識し実行するようになった。</p>
<p>次年度に向けた課題と展望</p>	<p>ESDストーリーマップを完成させたことで、教育目標の具現化のためのESD実践に一本の軸ができ、方向性と連続性を確立することができた。反面、ストーリーの完成を生徒に委ね、自らの意思と熱意で学びを進めるさせることには課題が残る。教師のファンリテーターとしての技量向上が課題である。</p> <p>SDGsの認知度が高まってきている現在、さらに開かれた教育課程の実施により、地域のESDフロントランナーとなるべく実践を続けたい。</p>

